

私はジータ

「空の果て」
イスタルシアを
目指して旅をしているの！

つらい過去も
沢山あったわ：

でもそれを乗り越えて
今も旅を続けている

これからもきつと...
そう思っていた
矢先だったの

それは間違いだと
思い知らされる

「こちらにお怪我を
している方がいるという
お話を聞いて参りました！」

「お怪我をされている
方はどちらに...」

「忌まわしい過去」
という怪物が
襲い掛かって
来るでは...

「ずいぶん久しぶりだなあ！」

「貴方たちは...
まさかあの時の...!」

「よおー！
ウサギの嬢ちゃん」

「覚えてくれて
うれしーいぜ」

「嬢ちゃんに
頼みたいことが
あってな」

「それは...
あの時の映像?!
どらして...」

「いやあ最近の
技術って
やつあすこいねえ」

「魔術で当時の
記録を残して
おけるんだからなあ」

「まっ、要件は簡単だ」

「さっさと
ばら撒かれたら
良かったら」

「おっと
ここから先は
...わかってるよな?」

「へへへ...」

ちんぷん♡

ちんぷん♡



「ちよろいもんだなあ!!」

「ちよろ!!」

「おい、お前ら、可愛いウサギちゃんが癒してくれるってよ!!」

「やだ...来ないで...」

「や...」

「穴という穴全部にぶち込んでやれっ!!」

「あああああああああっ!!」

「このマンコ超締まるッ!!」

「ケツの穴もだ!」

「このくっきり空で仲間とよろしく犯ってばかりのユルガバだと思ってたのによお」



「うひょおっ!! 母乳だ、まじかよ!!」

「痛っ!」

「そこ...っ 強くしたら...」

「この胎の具合だと、墮ろじやがったな」

「このいつ前犯したとき孕んでやがったのか」

「安心しろ、すぐに新しいガキ仕込んでやるぜ」

「あああ...そんな」

「この人数だ、誰のが当たるか楽しみだぜ」

「やっつてみるぞ
出そうぞ……」

「俺も……」

「ら……」

「膣は」

「膣だけはだめッ
だめだからああ……ッ!!」

「うるせえ!!」 「母乳吹き出しながら
受け取れ!!」

「やだっ、赤ちゃん……
また赤ちゃんが
できちゃう!!!」

「あゝマジ最高」

「ホント、何発でも
出せそうだわw」

「おいおいマンコとケツから
ザーメンが溢れかえってる
じゃねえか」

「次に使うやつ
のこと考えとけよ」

「う……う……」

「は……」

「わりいわりいw」

「なあ、『アレ』やってみねえか？」

「いいけどよお
こいつのマンコ壊れち
まうんじゃねえか？」

「そこは問題ねえ
なんつてつたつて
『セージ』様なんだからよ」

「自分のくらし
治すせるしよw」

「アキヤクハツ
それもどうかw」

「痛つ、いたいたつ!!」

「よーし そのまま降ろせ」

「あ……ああ…… 嘘……無理だよ 2本なんて」

「ギヤハハッ、せいせい壊れんなよW」

「一気に押し込むぞ」

「せーの……っ!!」

「ガキをひり出す穴が この程度で裂けるか ポケエっ!!」

「魔法でも治せねえくらい ガバガバにしてやる!」

「おっほー 入った入った」

「守げえすげえW」

「やんっ チンコ千切れそう」

「あ……」

「あ……」

「裂けるだめ?」

「その方が、子供産む時楽だろW ギヤハハッ!!」

「あ……あ……」

「やめてえっ!!」

「裂けるっ!」

「裂けちゃうっ!!」

「やっば反応がいい メス穴は最高だな!!」



「あー出した出した」
「こりや、間違いなく孕んだな」

「あーあー…見てみろよ
マスコから何か出てるぞ」

「これ子袋だろ？」



「おほっ、すげえ
俺初めて見たわ」

「柔らけえし
フニフニしてやがる」

「おいやめろ
ザ！メン
こぼれてるだろ！」



「大丈夫だる
子宮もパンパンだしな」

「今ごろ何百億って
精子がこいつの卵子に
群がってるだぜ？」

「おい、聞こえてっか？」

「前みたいに
助かると思っ
てないよな？」



「そこんとこ
ヨ・ロ・シ・ク・」

「ギヤ——ハハハアアッ！！」

